

## ■ 令和2年度 第9回 秋葉区自治協議会

日時：令和2年12月25日（金）午後1時30分

会場：秋葉区役所6階 601・602会議室

### 1 開会

（金子会長）

皆さん、こんにちは。今日は、普段よりも少し出席率がよいですね。クリスマスだからでしょうか。たまたまということですが、12月25日クリスマスということで、産休明けの渡辺委員も今日から復帰されるということで、よろしく申し上げます。

これもクリスマスだからでしょうか。サンタさんがいらしたようで、皆さんにプレゼントをお配りいただいているようです。かわいらしいサンタクロースが今日、机の上に乗っていますけれども、大貫委員からのプレゼントだそうです。大貫委員、ありがとうございます。

また今年も年末年始がやってくるわけでございますけれども、皆さんもご存じのとおり、新型コロナウイルス感染症は収まる気配が見えておりません。本当にあたってほしくなかったのですけれども、私が心配しましたとおりにいいますか。コロナの驚異というものはこれからなのだろうと徐々に実感をしているところです。見えないところで困っている方、苦しんでいる方がいらっしゃるのではないかと思います。そういったもことも気がついたら情報交換しながら、なるべく多くの方に手を差し伸べられるようなまちづくりを一緒になって考えていければと思っております。

こういった苦しい時間といえますか、大変な時間が続いているときに、私自身助けられている言葉があるのですけれども、簡単な言葉ですが、力を抜いて前向きにいきましょうと。力を抜いて前向きにという、その辺のところを皆さんにも共有いただきながら、秋葉区のまちづくりを考えていきたいと思っております。本日も、活発なご議論をよろしく願いいたします。

本日、FMにいつから取材の協力依頼をいただいております。写真撮影など許可してよろしいかお諮りしたいと思いますが、いかがでございましょうか。よろしいですか。それでは、許可することにいたします。

### 2 議事

（1）令和3年度秋葉区特色ある区づくり予算にかかる事業の企画立案に対する回答書

## の提出について

(金子会長)

それでは次第に基づき進めさせていただきます。最初に次第(1)「令和3年度秋葉区特色ある区づくり予算にかかる事業の企画立案に対する回答書の提出」ということで、私からご報告したいと思います。

前回、前々回と各担当の課長たちからご説明をいただきまして、特色ある区づくり予算について、皆様からご意見を頂戴しました。概ね問題ないという意見がいくつかございましたけれども、内容に関しては問題ないということと、今の社会情勢を踏まえ、新型コロナウイルス感染症に関する対策が意見として多かったような気がしますので、このようにご回答させていただきました。

令和2年11月20日付け新秋地総第1351号にて意見聴取のありました標記のことについて異議はありませんが、新型コロナウイルス感染症の拡大に十分留意したうえで、秋葉区のまちづくりが停滞しないよう、掲げた成果目標を達成されることを望みます、ということで意見を返させていただきました。これにつきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思います。いかがでございましょうか。特にございませんか。よろしいですか。ありがとうございます。

では、これで、次第(1)「令和3年度秋葉区特色ある区づくり予算に係る事業の企画立案に対する回答書の提出について」を終わらせていただきます。

## (2) 令和2年度第2回区自治協議会会長会議の開催について

(金子会長)

続きまして、次第(2)「令和2年度第2回区自治協議会会長会議の開催について」、ご報告です。当日、私はどうしても外せない用事ができてしまいまして、代わりに阿部副会長からご出席いただきましたので、阿部副会長からご報告いただきたいと思います。

(阿部副会長)

会長会に代理で出席させていただきました。

はじめに、小田座長から、コロナ禍においてモチベーション維持することが必死だったというお話もありました。本当にそのとおりだと思いますが、第7期から第8期に向かってバトンタッチするわけですが、よい形で行えるように今日は意見交換をしましょうというごあいさつで会議が始まりました。

議題は、区自治協議会第7期の振り返り資料の作成についてです。振り返り資料に掲載する新型コロナウイルス感染症による自治協議会の諸課題に関する各区の検討結果に

ついて報告を行いました。資料が皆様のお手元にあるかと思えますけれども、そこにはまとまったものと各区のものもありますね。お読みいただければ分かるかと思えます。やはり区ごとに特徴があるというか、西蒲区は観光地であるとか、西区は大学がある強みがあるとか、そういった感想を私は持ちました。皆さんの関心がおありなのは秋葉区ではないかと思うので、私が秋葉区のことを報告したことを述べさせていただきます。秋葉区をお開きいただけますでしょうか。

まず、提案事業についてです。以前、第3部会から報告がありましたけれども、あきはこども大学を移動手段や人数を工夫して実施したことを報告してきました。それから、幸福度調査に本当は今年度取り組む予定だったのですけれども、Withコロナを前提として、来年度の調査実施を目指して始動したことを報告してまいりました。

あとの議題では、開催方法についてずいぶんお話が出たのですけれども、秋葉区としては、Withコロナ時代に対応して、実施形態は遅かれ早かれ、部分的に、あるいは可能な方はオンライン参加などの検討の余地があるのではないかという話をしてきました。その部分、遅かれ早かれオンラインを検討する時期がくるということは、各区の会長ともに共通認識を持たれたように感じました。

大きな議題として防災強化ということがあるのですけれども、これは本当に各区とも関心が大変高いと思えました。自治協議会委員としての視点から見ますと、秋葉区の自治協議会としてのスタンスは非常に納得がいきます。仮に、私がコミュニティ協議会に行って、自治協議会委員です、避難訓練をやりましょうといってもだれも動かないという仕組みを考えると、これは多分自治会長がやはり動きを知っているということはずごく大事ですけれども、せっかく自治協議会だからという視点もあつていいのではないかと考えたので、そういう意味で秋葉区のコメントは私は納得しました。

そのうえで、きらめきサポートプロジェクトにおいて、新潟市防災士の会秋葉支部による防災手帳の作成、配布に関する事業提案が採択され、防災士の会と自治協議会の協働により活動が推進されていることを話しましたら、ここには本当に他区から非常に強い関心が寄せられました。たまたま私は、青木委員からいただいていた防災手帳を持っていたので、見せてくださいという引き合いもあつたりして、関心は本当に並々ならぬものを感じましたし、これからますます充実していかれることを望みたいと思えます。

防災に関しては、西蒲区は防災士は少ないというお話でしたし、地区によっては防災士の数も違うし、防災士は個人資格であるということも伺っていますので、防災士の養成や連携。連携というのは、防災士の方に指導してもらいたい部分やそういう部分だと思うのですが、取組みのあり方についていろいろ意見を交換されていますが、こ

れからまだまだ深く追求されていくのかと思います。私は、そのような報告をしてまいりました。

会議が終わりましたあとに、市長との懇談が1時間ほどありまして、それも報告いたします。話題としては、2025年問題。高齢者や一人暮らしが多くなる。その問題について。それから、代表をして言えば新潟交通だと思えるのですけれども、公共交通問題。そして、防災についてと新型コロナウイルス感染症について。そのようなことが話題になりました。

2025年問題に関しては、支え合いのしくみづくりなどが各地で展開しているわけですが、課題を克服しながら2025年に向かっていくし、新潟は地域の茶の間などよくやられている地域だと思うという市長の回答でした。そういえば、河田さんの講演を何回も伺ったことを思い出しながら、茶の間が広がっているという実感があります。

公共交通ですが、南区は特に公共交通が脆弱な地域であるからして、多分、区バスや住民バスなどを検討されているのでしょうけれども、やはり会長から、これを区で完結しろとは無理ですというご発言でした。そこに対する市長のお答えは、今は平時でも全国で苦慮している課題である公共交通を、このコロナ禍で外出が減ったために利用は悪化してますます苦しいと。ただ、BRTは、大幅に見直ししますというお話でした。また、新潟交通がもしなくなったら、新潟市民は非常に困るということで、何とか利用が増えるように高校生や専門学生にりゅうとカード3,000円分を配布しましたという話があり、何とか乗り越えたいというお話でした。

新型コロナウイルス感染症は、各地区で、うちは何人出ましたとかそういう報告もありました。西区で気になったことは、施設でクラスターが出ましたが、そのときに住民間で誹謗中傷という問題が発生したと伺って、残念に思います。昨日でしょうか、新聞に、市議会で誹謗中傷を止めたいという決議がなされたということを知って、本当だと思って見ていました。私たちもいろいろなところで心がけて、やはり医療従事者にはエールを送りたいと思ったところです。

私は、秋葉区の番が来たときに、自治協議会として意見箱を作りましたね。新型コロナウイルス感染症で困っていることなどあったらという。その箱に、数はごくごく少なかったのですけれども、入っていたものを紹介させてくださいということで紹介しました。1件は、呼吸器に疾患のある方がまだマスクもないとか、あれがない、これがないという時期に非常に困った。どこに行ったら手に入るかみたいな情報が流れていたら嬉しかったという意見。もう1件はデジタルばかりだと。例えば、二次元コードでピッとやってから終わりの事業ではなくて、はがきでもできるようなものも考えてほしいとい

うようなことがありましたとお話しましたら、市長から丁寧に答えていただいて感動しました。接触が難しいので、デジタル化はその強みもあります。ただ、しっかりした正しい情報を様々な媒体を通して繰り返し発信していく努力をします、というお答えをいただいてありがたいと思った次第です。こんなところですが、お分かりいただけましたでしょうか。

(金子会長)

阿部副会長、本当にお手数おかけしました。ありがとうございました。

それでは、ただいまの件につきまして、ご意見やご質問がございましたらお願いします。

(渡邊委員)

渡邊です。質問というよりは提案なのですが、秋葉区では、防災手帳の作成、配付に関する事業提案を採択しておりますが、西区は実際に設営体験等を行っているということも含めて書いてあります。ですので、もしでしたら、この自治協議会の中で自主研修という形で防災士の方々に研修をしていただいて、それぞれの方々が各地域に持って帰るという方法もありなのではないかと、お話を伺いながら思っておりました。

(金子会長)

ありがとうございます。前向きなご提案ですので、まず担当している第1部会で具体的な方法も含めて検討させていただきたいと思います。

(小林委員)

中央コミュニティ協議会の小林でございます。今のお話はとてもいい話だと思うのですが、すけれども、自治協議会の役員が研修を受けることも大切ですが、実は、私はコミュニティ協議会と町内会に関わっているものですから、現状を見ていますと、中央コミュニティ協議会管内では一生懸命、何とか自主防災会を立ち上げたはいいのですが、何をしたらいいのか分からないと。私は、自治協議会の人間が講習を受けて、自分の関係する自主防災会へ持ち帰ろうとしてもなかなか難しいですから、逆に自主防災会の人たちを対象にして講習会とか指導会みたいなものをして、もっともっとストレートに役に立つのではないかと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。なお前向きなご提案だと思います。そういうところに自治協議会の委員も参加できるような形を作れると、きらめきサポートプロジェクトをきっかけに、また連携が深まって自主防災会が活性化するという、いいことづくめだと思いますので、その辺を部会の中でご検討をいただければと思います。

(青木委員)

第1部会の青木と申します。今の渡邊さんの提案は非常に素晴らしいと思います。防災士の会も、皆様の要望があればどこでも行って、皆様に防災の関係の意識の向上ということで、そういう段取りをしておりますので、いつでも希望の方がおられて話をいただければ、それなりの対応ができるはずですから、そのようにしていただければ助かりますので、よろしくをお願いします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかに、ご意見等いかがでしょうか。ほかは特によろしいですか。

特にないようであれば、次第(2)「令和2年度第2回自治協議会会長会議の開催について」のご報告を終わらせていただきます。

### (3) 第1回秋葉区民幸福度調査企画会議の開催について

(金子会長)

次は、次第(3)「第1回秋葉区民幸福度調査企画会議の開催について」ということで、私からご説明させていただきます。資料3をご覧ください。お配りしてあります資料は、その企画会議の際のプログラムを、裏面にそのメンバーを記載してございますが、このような形で、12月11日の3時半から2時間ほど、秋葉区役所6階で開催をいたしました。ワークショップを行ったわけですが、それにあたりましてはNPO法人まちづくり学校の山賀昌子さんからお越しいただき、コーディネートを務めていただきました。

この日のテーマは、秋葉区の幸せな未来の姿、将来の姿はどういうものなのだろうかということをご共有することでした。まずは、幸福度調査をするときに、どんな幸せな未来を想像できるのかというところを明らかにしたうえで、その次に詳細な質問項目を考えていくという順番で、第1回目はまず幸せな将来像。それに併せて、幸せな将来を阻害するような課題はどういうものがあるかということで意見交換をしました。非常に活発に様々なご意見が出まして、結果については今、まだ取りまとめている最中ですので、本日お配りすることは叶わなかったのですが、大体どんな意見が出てきたかということだけ、かいつまんでご紹介したいと思います。

やはり幸福というと自立できていること。特に経済的な部分が大きいと思うのですが、心配なく生活できることです。あと、希望を持って生きることができているかどうかということです。それと、本当に秋葉区は様々ないいところがたくさんあり、便利

なところでもありまして、周りに小さな幸せがたくさんあると思うのですけれども、そういうものに気がつけているかとか、困ったときに助け合えるようなつながり、家庭や仲間とそういったようなものの実感があるかといったことも重要な要素であるといった声がありました。やはり健康であるということが、またもう一つ重要な要素であるということです。

非常に根本的な話なのですけれども、たしかに幸せをはかるということは、そういうところをしっかりと踏まえたうえで、質問項目を考える必要があるということを感じながら、第1回を開催させていただいたところでございます。こちらはまた、まとめができ次第、自治協議会の本会議でもご報告をしながら、皆さんからのご意見を頂戴したいと思っております。非常に簡単ではありますが、私からのご報告とさせていただきます。

何かご質問やご意見等がございましたらお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

ちなみに、来月に第2回を開く予定になっておりまして、2月にまた第3回ということで、ここまできると大体、調査票の中身が見えてくるといったような形になる。そんな予定をしております。何かご意見やご質問等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次第（3）「第1回秋葉区民幸福度調査企画会議の開催について」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

#### （4）第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催について

（金子会長）

次第（4）「第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催について」ということで、座長の小林委員からご説明をお願いいたします。

（小林委員）

座長の小林でございます。それでは、資料4をご覧ください。第8期委員改選にあたり、委員構成、任期、第2号委員の選出団体、公募委員の募集選考について、新型コロナウイルス感染症の関係で対面の会議とせず、書面にて協議いたしました。

資料4の2枚目の裏面、第8期委員改選スケジュールについての表がございますが、一番上のところで誤りがありますので、訂正したいと思います。1行目、12月10日木曜日となっておりますが、これは12月11日金曜日の誤りでございます。訂正をお願いいたします。

委員改選スケジュールは資料のとおりに進めていきます。2月初旬までに選考した委員候補者について、第11回自治協議会で皆様からご審議いただく予定でいます。この時点で30名の候補者が揃っていなかった場合は、第12回自治協議会でも、残りの候補者について審議をしていきたいと思っています。

次のページ、委員数、委員構成、任期についてをご覧ください。委員数は30名、委員構成は、第1号委員が11名、第2号委員が11名、第3号委員は公募委員4名を含む8名。任期は、原則再任2回、通算6年を上限とし、公募委員のみ区民による区政の参画機会を確保するために、再任1回、通算4年を上限とします。資料では、通算2年と記載されていますが、この下のところに各号委員の再任回数の上限のところ、第3号委員のところ、上から三つ目の枠のところですが、ただし、公募委員は1回、通算2年と書いてありますが、通算4年の間違いであります。ですから、2期行えるということになります。推薦会議では、承認多数により、この案を採用したいと思っています。

委員構成については、地域住民の多様な意見を取り入れるため、第2号委員と第3号委員の数を逆にしたほうがいいのではないかという意見がありましたが、第2号委員は、区内でいろいろな活動をしているさまざまな団体で構成されておりまして、団体の活動を通して得た知識や経験などを生かして、さまざまな視点で議論をしていただけると考えています。

また、第1号委員として、区内の全コミュニティ協議会から選出されていますので、地域で異なる事情などは多様な意見を集約することもできますし、地域の意向を反映させることができるのではないかと考えています。

次のページの第2号委員選出団体（案）をご覧ください。第2号委員の選出団体を、今期と同じ団体にすることについて承認を求めました結果、承認多数によりこの案を採用したいと思います。選出団体については、幼児期と中学、高校にあたる思春期、青年期に直接かかわっている団体が見受けられないという意見も寄せられました。

たしかに、この年代に特化している団体はございませんが、民生委員や児童委員、さらに学校の地域教育コーディネーターなど幅広い世代に対しての相談、支援に携わっている団体が関わっています。また、専門的な立場からの意見が必要だという本会議で認める場合には、委員以外のものを会議に出席させ、意見を述べてもらうことも可能となっています。

最後のページですが、公募委員の募集および選考についての案をご覧ください。公募委員の募集および選考についても承認多数により案を採用したいと思います。募集期間は、12月20日から1月25日までとし、先日の区だよりに掲載しています。



選考は、作文と活動歴に基づいて行います。評価表については、公正を期すため添付しておりません。推進会議の会議委員の皆さんも取り扱いに注意していただきたいと思えます。以上が、書面協議の結果となります。

(金子会長)

ありがとうございます。ただいま、小林委員からご説明をいただきました。今日、自治協議会委員の改選期にあたりまして、委員数、委員構成、任期、これらは従来どおりということでご提案をいただきました。また、選定に向けたスケジュールもお示しをいただき、ご提案をいただいたところです。これにつきまして、ご質問やご意見等ございましたらお願いします。よろしいですか。特にございませんか。

一応、これは自分たちのことですので、決を採りたいと思うのです。ただいま、小林委員からご提案いただきました自治協議会委員の推薦につきまして、ご賛同いただけます方は挙手をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。ありがとうございます。挙手多数ということで、承認可決されたというふうにさせていただきます。以上で、次第(4)「第2回秋葉区自治協議会委員推薦会議の開催について」を終わらせていただきます。ありがとうございました。

## (5) その他

### ア 部会活動報告

次に、次第(5)「その他」に移りたいと思います。最初に、各部会からの活動報告をお願いします。では、第1部会の小林委員からお願いします。

(小林委員)

第1部会の小林でございます。きらめきサポートプロジェクトについて、ご報告いたします。五つの事業が採択されておりますが、それぞれ活動を行っております。

秋葉区田家2丁目町内会による、秋葉山地区マウンテンバイクコース作成事業につきましては、建設課と随時情報を共有しながらコース整備を進めております。秋葉区の先のキャンプ場周辺がかなり変わりましたので、皆さん一度足を運んでみてご覧になっていただくとありがたいと思えます。

新潟市防災士の会、秋葉支部による防災カードの作成、配付および活用のための防災講習会等の開催事業につきましても、地域総務課安心安全担当と連携しながら事業を進めています。すでに、防災カードができあがりしました。どのようにこれを活用していくかは検討中ということです。

ちなみに、私は秋葉区の本町2丁目ですが、私どもの町内会では先日、防災の日で、

防災士の方々に来ていただきまして、いろいろとご説明いただきました。今まで防災のことを頭の中だけで考えていましたが、お話を聞くことによって非常にやはり、いざとなったときに本当に動けるようなところまで少し考えておかないとだめだという話になって、とても参考になりましたので、ぜひ皆さんもお願いをして呼んでいただければと思います。

新津郷土に親しむ会の新津の大庄屋桂家の出版事業につきましては、12月21日に第2回の関係者会議を行いました。皆様のお手元にチラシがいていると思いますが、2月13日土曜日に秋葉区文化会館におきまして、出版記念講演会を行います。入場無料でございますが、コロナ禍の関係で先着200名になります。演題一は、桂家住宅とその大工ということで目黒新悟さん、奈良文化財研究所の方です。それから、演題二が、今に問う！新津の大庄屋桂家ということで、郷土の写真の会の著者の方々のお話ということで、本の紹介が中心ですが、その中で大事なところを話していきたいということで考えていますので、ぜひ大勢の方々に来ていただけるとありがたいと思います。よろしくをお願いします。

新津中央コミュニティ協議会鉄道の街にいつ ひな・お宝めぐり事業につきましては11月10日に会議を行いました。つるし雛以外のまちの中のお宝めぐりがコロナ禍ということで、まちは不参加になりました。中央コミュニティ協議会の折り紙によるつるし雛をしっかりとやっていこうということで、参加団体に作成を依頼して、もうそろそろできあがる頃かというふうに思います。開催期間は、令和3年2月1日から3月7日に決定いたしました。

小須戸コミュニティ協議会、在郷町小須戸ひな・町屋めぐり事業。これにつきましても、期間は同じで、令和3年2月1日から3月7日に決定しております。小須戸は商店街と一緒に企画しているようでございます。

これから実施される事業が三つあるのですが、順調にいつているかと思えます。来月以降も、本会議で進捗状況をご説明したいと思えます。よろしくお願ひいたします。  
(金子会長)

ありがとうございました。最後までひととおりはこびいただいたうえで、ご意見やご質問をお願いしたいと思えます。

続きまして、第2部会の佐藤会長からお願いします。  
(佐藤委員)

第2部会の佐藤でございます。生活公共交通については、まず対象を買い物などに本当に困っている方。そういう方々に対してどのようなことが必要なのかについて、

アンケート調査をしながら組み立てていこうと今、考えております。

ただ、私たちの任期中にはなかなかできませんので、これについては、次期の委員の方々に引き継いでいきたいと考えております。ただし、やってみるとすごく分かるのですけれども、本当にこれは難しい問題です。

もう一つは、ずっと懸念しておりました、施設との地域との結びつきについてであります。施設が今、閉鎖状態ではありますが、何とか少しでも、1歩でも近づけるといいう考えで、何とか防災士の方々を活用するようなことができないのかというふうに考えております。皆さんも第2部会により知恵がありましたら、こんなことがあるとか、こんな情報があるとかいうことがありましたらお知らせいただきたいと思えます。よろしくをお願いします。

(金子会長)

ありがとうございました。続きまして、第3部会の島倉部会長からお願いします。

(島倉委員)

第3部会の報告です。こども大学では待ちに待って9か月ぶりくらいに子どもたちと再会することができました。小さかった子どもたちが、大きくなって再会できたことを本当に喜びあいました。そして、七、八人のグループを2グループ作って、一つは新津工業高校の見学、それと金津焼の押味さんからの丁寧な指導で器を作るということで、子どもたちは真剣に参加していました。

新津工業高校では、教頭先生がとても子どもたちにフレンドリーな話しかけをして、子どもたちは教頭先生にくっついて歩いて、いろいろな日本建築やいろいろな機械を見たり、映像も用意していただき、子どもたちが、こういうものもあるのだということにびっくりしていました。その中で、またこれからの将来に、新津工業高校に関心を持ってくれる子がいればいいと思いました。

押味さんの金津焼きでは、地域学園の一室をお借りして、粘土のこね方を教えてもらい、平皿を作ったり、花瓶を作ったり、とても喜んで参加していました。私たちもうずうずして、作りたいような衝動にかられました。今度私も体験してみたいと思いました。最後に修了証書を渡し、子どもたちはいい経験になったのではないかと思います。

12月1日は秋葉教育懇談会がありました。地域の幼稚園、保育園、小中学校、高校、大学の先生方が多数参加されて、この会場で開かれました。万代高校における地域連携の取組みが発表されました。あと、待ちに待っていた大正大学の浦崎太郎先生の講演もお聞きすることができ、とても意義深い教育懇談会ができたように思います。

(金子会長)

ありがとうございました。では、最後に、広報部会の田中部会長からよろしく願います。

(田中委員)

広報部会です。各部会の報告を聞きますと、先月、先々月からみますと、だいぶ動き始めてきたというふうに感じます。こども大学も、子どもたちの成長というような話もありましたけれども、私たちも成長しなければだめですね。

かわら版ですけれども、12月22日に広報部会を開催いたしまして、「かわら版」の26号「あきはくはつものがたり」を3月21日に発行するという計画をしております。かわら版の内容とレイアウトについて、この前話をしたのですけれども、各部会で報告がありましたように、第1部会のきらめきサポートプロジェクト、第2部会では活動の状況、活動の報告させていただければ嬉しいかと。よろしく願います。

第3部会は、こども大学で良い活動をされたみたいですので、その辺のところの内容をお願いしたいというふうに思っています。よろしく願います。

広報部会は、次回にまた案内しますけれども、その辺のところを踏まえて構成会議を行いたいと思いますので、またよろしく願いたいと思います。

FMにいつは、毎月第2水曜日の12時20分から放送します。1月13日の放送につきましては、第1部会の伊藤委員、第2部会の長谷川委員から出席をよろしく願いたいと思いますので、よろしく願います。

(金子会長)

ありがとうございました。これで、すべての部会からのご報告をいただきましたので、ただいまのそれぞれのご報告について、ご意見やご質問等がございましたら願います。島倉委員、教育懇談会のあとに、浦崎先生とお会いしまして、ご本人は非常にどうだったかと心配をしておりましたけれども、何か参考になるお話は聞けましたでしょうか。

(島倉委員)

足し算をする教育ではなくて、掛け算をする教育が望ましいということで、そのときは分かったのですけれども、ぜひまた詳しくお聞きしたいのです。

(金子会長)

ご本人も、詳しく説明する分には大喜びで、またご協力いただけると思います。

本当に、何かそこから、勉強で終わるのではなくて、具体的に地域との連携を進めていくという。そんな仕組みをつくっていくうえでも、またいくらでも協力するとお

っしゃっているんで、またやり取りをさせていただければと思います。

ほかに、何かご質問やご意見等ございませんでしょうか。

(渡邊委員)

ご提案を一つ。つるし雛の折り紙を作ったことがないので、もし可能でしたらですが、こちらにいらっしゃる皆さんで一つずつ、大貫さんから教えていただいて作ることはいかがでしょうか。

(小林委員)

ありがとうございます。中央コミュニティ協議会の小林でございます。今年は、昨年出られなかった保育園や幼稚園も参加しますし、介護施設も増えましたし、そのほか学校関係もクラスで作ってくれるとか、どんどん広がっています。コロナでどうしようかと思ったけれども、これが定着するようにしていきたいです。今のお話をぜひ皆さんで、1人が10個くらいずつ作るように手配をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(金子会長)

どうしても作りたくないという方はいないと思いますけれども。

(小林委員)

よろしくをお願いします。

(金子会長)

まずは、私たちが参加をしようということでありまして。50個作れば。

(小林委員)

ありがとうございます。区役所と自治協議会の二つ大きなものを、新津と小須戸とありますので、2組何とかするように、小須戸の方々とまた調整したいと思います。よろしくをお願いします。ありがとうございます。

(金子会長)

それでは、皆さん張り切って作りましょう。そのお話を聞いている間に、一つ思い出したのですけれども、第2部会の佐藤部会長に少し情報というか。実は、今年の私の4年生のゼミのゼミ生が1人、全国の公共交通について調査をしました。本当に、空白地域というものが全国どこにでも発生しているわけですが、それをどういうふうに解消したらいいかということテーマに、まさにやったばかりです。そんなに難しい論文ではないので、ご紹介したいのです。

かいつまんでその結論を申しますと、公共交通を公共交通として復活させることはほぼ無理だろうということと、あとは実験的にあちこちでお伺いするコミュニティバ

スもほとんど成功した事例がないということが現状なのです。ですので、公の力から公共交通を細かいところまでカバーしていくということは非常に難しいのです。

ただ、NPOなどが、空いている車を上手に活用して、いろいろな送迎用のマイクロバスを持っていたりとか。あと、自家用車を活用しているとか。言ってみれば制度外の助け合いみたいなものも、半ばボランティアみたいな形でやっているところは非常に持続的にうまくいっているケースが多いというところで、結論としてはそんなところだったのです。けれども、それ以外の様々なことも分析が書き込まれていますので、ぜひまた情報提供をしたいと思いますので、ご参考にしていただければと思います。

(小林委員)

今の公共交通の件ですが、彦根に娘がいるのですが、公共交通機関を使って動いても全然苦痛がないというか、支障がないです。なぜかと思ったら、やはり1時間に三、四本はバスも電車も動いているのです。私は、やはり皆さんが使わない一番大きな原因の一つは、あまりにも少ない本数しか動いていない。そこがものすごく、使おうと思っても使えないというか。その大事な部分ではないかというふうに思いましたので、ぜひ佐藤さんには、その辺も頭に入れて考えていただけると嬉しいと思います。よろしくをお願いします。

(金子会長)

ご意見ありがとうございました。佐藤部会長の重荷がさらにぐっと重くなったような気がしないでもありません。大事な問題だと思うので、皆さんで情報共有しながら考えていきたいと思います。

(阿部副会長)

もしかして、社会福祉協議会の方にお伺いしたほうが分かるのかもしれませんが、やはり、ここへきて、生活が苦しい方がたくさんいらっしゃるのではないかとすごく心配しています。野菜を配ったり、米を配ったりあるみたいですが、秋葉区の場合は、その辺がどうなっているのか。そういう声が届いているか、現状を教えてくださいたいです。

(金子会長)

ということで、羽生委員、いかがでしょうか。今、社会福祉協議会は本当に大変だと思うのですけれども。

(羽生委員)

社会福祉協議会では、コロナが広まってきた3月以降、生活に困窮されている方に

は貸付金という形でやっておりましたし、それも少し延長してやっているような形です。

最近、特に新発田での取り組みが頻繁にテレビに出ておりますけれども、新潟もフードバンクの活動はやられておまして、私ども社会福祉協議会の事務所に、不要になった食べられるものについては持ってきていただいて、新潟から月に1回くらい回収に来て、それを必要なところにお配りしているということもあります。

また、秋葉区の社会福祉協議会では独自に、ひとり親家庭に、寄贈していただいたお菓子類を配ったりという活動もしております。そういう形で、皆さん方から、家にある当面食べないようなものを持ち寄っていただいて、必要なところに提供していくというふうなことは、いろいろな団体を通じてやらせていただいております。

(金子会長)

宮腰委員から補足ということで、お願いします。

(宮腰委員)

今のフードバンクの件ですけれども、私どもの事務所でお預かりさせていただくのですが、大体月に1回取りに来られるので、賞味期限が短いと、取りにきたばかりですと、それから1か月後くらいに取りに来て、それをまた配るということになりますと、またそこに日にちがかかるので、2か月以上賞味期限のあるものを皆様にお願ひしております。短いと、どうしても必要な方のところに届かなかったりするので、2か月以上の常温で保存できるものをお願いしています。

フードバンクの方が、秋葉区が一番集まるとおっしゃっておりましたから、やはり皆さんの関心が高くていらっしゃるのだと感じております。もし、お近くにそういう方がいらっしゃいましたら、秋葉区社会福祉協議会にお願いしますとお伝えいただければありがたいです。よろしくお願ひいたします。

(金子会長)

ありがとうございます。よく、最近マスコミでもより頻繁に見るようになりましたけれども、本当にまだまだ足りないという時期が続くと思いますので、ご協力いただける方はぜひお願ひしたいと思います。

では、部会に関しまして、まだほかに質問やご意見はございませんでしょうか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。特になければ、各部会からの報告を終わらせていただきます。

## イ 新津健康センターの改修について

(金子会長)

では、その他の中で1点。新津健康センターの改修について、また進捗をご報告いただけるということで、明間課長からお願いできますでしょうか。

(健康福祉課長)

健康福祉課長の明間でございます。いつもお世話になってます。

新津健康センターの改修事業について報告いたします。新津地区市民会館併設の子育て支援センターの新津育ちの森の施設の老朽化に伴いまして、新津健康センター1階はつつホールに移転して、新津健康センター2階をホール化する計画であることをお伝えしておりました。

この度、12月議会におきまして、改修予算の議決をいただきました。事業費については、9,600万円です。整備にあたりましては、コロナ対策として空調の入れ替えや換気機能の向上を図るなどして、市民が安心して利用できるように、新型コロナウイルス感染症に対応した施設に改修することとしております。今年度に設計を進めまして、来年度に工事に取りかかることとなります。

工事は、2階部分を先行して実施しまして、その後1階の工事を行うことで、ホール機能を維持しながら進めていく予定です。施設利用の皆様への影響ができるだけ少なく済むように計画しまして、工事の時期につきましては決定次第、定期利用団体の皆様にお知らせするとともに、区だよりや館内掲示等により周知を図ってまいります。2階部分はできあがり次第、供用開始といたします。1階の子育て支援センターは、令和4年4月供用開始の予定としております。よろしく申し上げます。

(金子会長)

ありがとうございました。ただいまの件につきまして、ご意見やご質問等ございましたらお願いします。

(伊藤(直)委員)

公募の伊藤と申します。ただいまの件ですけれども、9,600万円というのは、これははつつホールの代替設備の工事費ということですか。それとも、1階と2階を含めた全部。

(健康福祉課長)

工事費については、1階と2階全部を含めてでございます。

(伊藤(直)委員)

そうですか。それで、はつつホールの代替設備ですけれども、これの面積はどのくらいなのでしょう。



(健康福祉課長)

面積については、今現在、計画をしているのは 276 平米というところです。これから、また設計の段階で調整を図っていくということにはなりません。

(伊藤 (直) 委員)

そのこのホールや踊り場などの一部を利用して、できるだけ広くしてほしいということをお願いしたとは思っているのですけれども、どうなのでしょう。今、はつらつホールは 300 平米くらいですよ。270 平米だと、1 割くらい狭くなってしまいますけれども、どうなのでしょう。

(健康福祉課長)

今のはつらつホールについては、350 平米あります。今現在のところでは、276 平米と出していますけれども、またこれから設計の段階で詰めてまいりますので、その廊下の部分がどこまで使えるかというところで、できるだけ広くとれるようにしていく予定であります。

(伊藤 (直) 委員)

全床、なるべく広く設計していただきたいと思います。よろしくお願いします。

(金子会長)

ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

(島倉委員)

使っているレクダンスや社交ダンスサークルの方からお手紙をいただきました。私のところに来たのですけれども、最初の段階ではよその施設に行かないとだめだったものが、同じ施設の中でサークルが続けられるということで大変喜んでいました。面積は狭くなるようすけれども、休む期間なく継続して、健康センターでできるということは本当によかったということで、私たちの声を、本当に聞いてくださって大変ありがとうございます。ぜひとも、なるべく広く取れるようにご配慮願えたら嬉しいです。

(金子会長)

ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

以上で、新津健康センターの改修の進捗報告とさせていただきます。

## ウ 地元飲食店&地域交流応援事業について

(金子会長)

もう 1 点。お配りしてある資料の中に、地元飲食店&地域交流応援事業ということ

でチラシがあります。これに関する説明を、地域総務課の伊藤課長補佐からお願いしたいと思います。

(事務局)

皆様お疲れさまです。地域総務課の伊藤です。皆様、お手元に配付されているチラシをご覧いただきながらお願いしたいと思います。

すでに、新聞、テレビ等の報道で、あるいは各団体向けのお手紙等も出させていただきましたので、皆様ご承知の方もいらっしゃるかもしれません。あるいは、すでにご利用いただいている団体の方もいらっしゃるかもしれませんが、改めてこのチラシを基に簡単に説明をさせていただきます。

もともと、新潟市地域交流の再開につなげること、あるいは地元飲食店への支援ということで、利用期間は一番下に書いてありますが、2020年12月11日(金)から2月末までということで、この事業をスタートさせていただきました。

しかしながら、コロナの感染拡大、県の警報等もございまして、12月16日から会食の部分について今、事業を停止しております。お弁当については、現在も受付をしております。

秋葉区内ですと本日、合計で39件のご利用の申し込みがございまして。会食については、早い段階での7件、弁当については32件のお申し込みということで、コミュニティ協議会あるいは自治会を中心に、各種団体の方からお申し込みをいただいてご利用いただいているところです。

現在の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況等もございまして、年明けからまだまだ期間はございまして、もしご利用を考えていただけるような団体がございましたら、あるいはお近くの方、必要な方がございましたら、ぜひお声がけいただきまして、もし開催したいということであれば、区役所地域総務課へご連絡いただきたいと思います。

(金子会長)

ありがとうございます。ただいまの件につきまして、ご意見やご質問等はございませんでしょうか。

(伊藤(直)委員)

公募の伊藤です。うちの町内は滝谷本町ですけれども、滝谷町と協働でやっているようなもの、例えば交通安全協会の支部ですけれども、その会合を開く場合も大丈夫なんでしょうか。使えるのでしょうか。その際は、どちらから請求すればいいのか。交通安全協会滝谷、滝谷本町支部でもよろしいのですか。

(事務局)

ご質問ありがとうございます。今ほどのご質問、これも非常に多くの方から聞かれている内容でございます。チラシのお弁当、オレンジ色の枠囲みで、弁当ご利用パターンというところで三つ三角がございまして、真ん中の 10 個以上の利用から対象という、次の括弧の部分で、複数団体での利用も可となっておりますので、今ほど伊藤委員からお話がありました、二つの団体あるいは三つの団体でも利用は可能です。それぞれ、代表の方を決めていただいて、申込書は 1 枚となっておりますので、その方のお申し込みをいただければと思います。

(伊藤 (直) 委員)

ありがとうございました。例えば、今言った、滝谷町、滝谷本町交通安全協会支部という形でも大丈夫ですね。分かりました。ありがとうございました。

(伊藤 (治) 委員)

スポーツ協会の伊藤です。このチラシを見て、これだけではないのですけれども、ここを見ていると地元飲食店の支援と書いていますけれども、この補助がないと、そういう会合はできないのか。補助があるからどうぞやってくださいではなくて、本当に必要だと、補助がなくなったら会合はやるのではないのでしょうか。

話がこれだけではないのですけれども、趣旨が一緒みたいなのですけれども、G o T o というのがありましたよね。G o T o というのは、行くと半額になるとかいろいろ割引あるというのですけれども、本当に行きたかったらG o T o なんかなくても自分のお金で行けばいいのではないかと私は思うのです。G o T o があるから、行くと行かないとかではなくて、基本的なところはみんな、人におんぶするみたいなのところもすごく感じるのです。だから、このお弁当の部分も、本当に各種団体が必要だったら、補助なんかなくたって自分たちでお金出してやればいいじゃないかと思うのです。こういうものを行政がお金を出してやることはいかがかと思うのです。へそ曲がりかもしれませんが、そのように思っています。

(金子会長)

ご意見ありがとうございます。そういうものに今あふれているという、日本中そういう状況になっておりますけれども、この補助制度に関する考え方というところで、何かご説明をいただけましたらありがたいのですが、いかがでしょうか。

(区 長)

区長でございます。ご意見ありがとうございます。この事業は、ホテル支援と同時期の出発ということで、市長が日ごろからいろいろな方のご意見をお聞きしている中

で、年末年始のこういった会合が、本来は年間を通じて一番多い時期にもかかわらず、コロナによっていろいろなマインドが下がって、きちんとした感染対策を行っていても、マインドが下がっているとやりにくいというものを、お金の形で、インセンティブということで活気づけたいということで始まったのですが、この冬の気候になって、特にまた大都市圏が全国報道のとおり急速な拡大基調ということで、残念ながら停止になってしまったと。始まってから1週間で停止になったのですけれども、キャンセルしないでそのままやられた団体もかなりあるのです。ですから今、委員がおっしゃったような、本来は地域のお店でこういうことをやろうということを思ってください方は着実にいらっしゃると思っています。今、停止中ですが、もし機会がございましたら、こういったことのご利用を。こういった会食やお弁当など、地域のお店をお使いいただければ、それだけでも大変ありがたいと思っています。ありがとうございます。

(青木委員)

金津コミュニティ協議会の青木でございます。今ほど説明にありました、弁当、会食の関係でございます。金津コミュニティ協議会は昨日、会議が終わったあとに弁当をいただきました。結果、値段も値段ですが、それなりの料理ということで非常に好評を得ました。そんな関係で、また皆さんも参考にさせていただければいいかと思えます。

(小林委員)

伊藤さんのおっしゃることは本当だと思います。ただ、春も、入学だとか、あるいは新社会人になった歓迎会、送迎会などだめになりましたよね。あのときも、本当にもう、飲食店や割烹とかそういったところはもうどうなるのだろうと思っていたのだけれども、何とか頑張ってきて、12月の年末年始にコロナが再発しなければ元へ戻るかと思っていたら、その矢先でしょう。だから、私が今、伊藤さんのおっしゃるように、やらなければいけないのであれば、補助金なんかなくたってやればいけないか。実際にやっています。けれども、例えば町内会などだと、1,000円くらいの弁当にするかといって大体そんなものでやっているわけですが、やはり、こういうときにこそお金出して、役所から少し補助金があれば、1,000円のものも2,000円になったり3,000円になったりするものですから、そのものがまわってくれば、彼らがしっかり足腰が丈夫になってくれれば、また元気になったときに税金になって戻ってくるわけですから、そういう意味での応援ではないかと思っています。やはり、これがあるとないとでは金額が全然違うと思います。ですから、やはり、ぜひこれはみんな

して使ったほうがいいのではないかというふうに思います。

(金子会長)

ありがとうございます。こういった施策に関してはさまざまなご意見があろうかと思えます。有効なのかどうなのかということの検証も必要なかと思えますので、言ってみれば、区役所をあげて、秋葉区民の消費マインドを応援しよう。それが、いつかまた未来に返ってくるというところですね。つぶれてしまったら、それでもうおしまいですので。そうではないまちづくりという。そういうご配慮なのかというふうには私は受け取っておりますが、見守っていったら、ご利用いただけると思えます。この機会に、少し高級なお弁当で明るい気持ちになりましょうというような施策だと思えますので、ぜひ皆さんもご利用いただければと思います。

いかがでしょうか。ほかに何かございますか。特にございませんでしょうか。

それでは、以上をもちまして地元飲食店&地域交流応援事業について、ご報告を終わりにしたいと思います。

あらかじめご用意いただいております報告事項は以上となりますけれども、ほかにいかがでしょうか。委員の皆様で何か情報共有したいということがございましたら、ご発言いただきたいと思えますけれども、おありになる方は挙手をお願いします。今日は、特によろしいですか。特にないようですので、以上で議事を終了したいと思います。進行を事務局にお返しします。

皆様、よいお年をお迎えください。ありがとうございました。

### 3 閉会

(阿部副会長)

お疲れさまでした。先日、たまたまつけたテレビで民謡をやってまして、東北生まれの私としては民謡が大好きなので、じーっと見ていました。ゲストに小杉真貴子さんが出られまして、何と、新津松阪を唄ってくださったのです。感動しました。こんなこともあるのだと思って、しっとり上手に唄いあげていただいて、こんな形での宣伝もできるのだと思って聞いていました。

押し迫ってまいりましたけれども、ますますコロナが酷くなってきて、ここは油断しないで、マスク、手洗い、3密を避けるを守って、来年の年賀状も書いていないのですが、書く気にもなれずにいますけれども、何とか乗り越えていきたいものです。また、来年もよろしく願いいたします。よいお年をお迎えください。